

大阪湾の浅海域で採捕されたオニオコゼ幼魚 II

佐野雅基

I. はじめに

オニオコゼ *Inimicus japonicus* は、大阪湾では小型底曳き網や刺し網などで漁獲される高級魚である。定着性が高いため地先型栽培漁業の対象種として注目されており、大阪府では近年放流技術を開発して高い放流効果を上げている¹⁾。しかし、オニオコゼの生態には未解明な部分もあり、特に幼稚魚の生態については小型のオニオコゼの採捕事例が少ないため不明な点が多い。これまで大阪湾で採捕されたオニオコゼの最小個体は2006年7月23日に採捕された全長36.5mm、体重0.77gの個体²⁾であったが、今回、より小型の個体を採捕したので報告する。

II. 採捕状況および考察

採捕年月日は2008年7月27日、採捕場所は、前述した全長36.5mmの小型個体が採捕された泉南郡岬町谷川の東川（通称「落合川」）河口部である（第1図）。この場所の底質は、沖合側が砂泥となっており、碎波帯付近が大型の礫が点在する砂礫帯で、アオサ類 *Ulva* sp. やオゴノリ類 *Gracilaria* sp. など分布している。採捕に使用した漁具は地曳き網（幅29m、高さ3m、袖網11節、袋網尻22節、両翼に曳網網100mが2本付属）で、これを

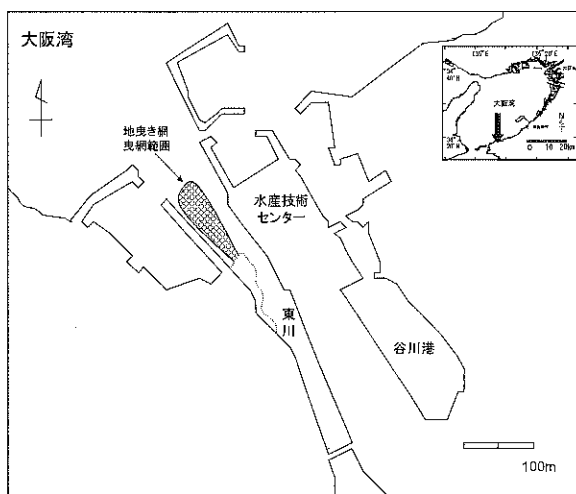
船外機漁船を用いて敷設した後、沖合から岸に向かって約100mの範囲を約40名の人力で2回曳網し、揚網後に入網物から水産動物を選別した。なお、曳網場所の水深は最深部で約4mであった。

採捕された水産動物は、魚類22種、軟体動物3種、甲殻類2種の計27種で（第1表）、この内、アオタナゴ *Ditrema viride* とハオコゼ *Hypodytes rubripinnis* が特に多かった。オニオコゼの採捕は1尾のみで、その全長は27.3mm、体重は0.32gであった（第2図）。この個体は、これまで大阪湾で採捕された最小のオニオコゼよりも全長で9.2mm、体重で0.45g小さかった。

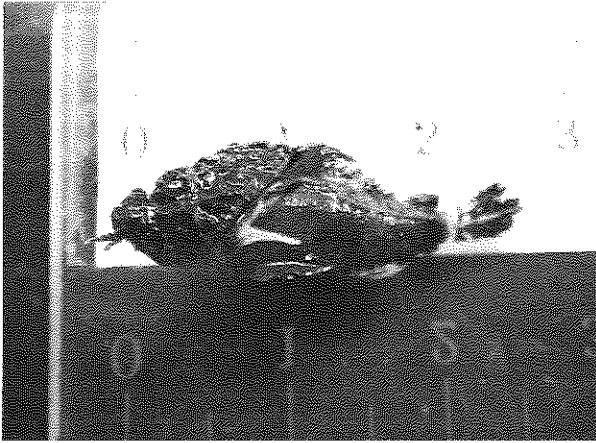
オニオコゼ幼稚魚の採捕報告事例は、大阪府の別の1例（全長56.0mm）³⁾、佐賀県の2例（全長29.8, 32.5mm）

第1表 地曳き網で採捕された水産動物

魚 類	オキエソ <i>Trachinocephalus myops</i> サヨリ <i>Hyporhamphus sajori</i> アオヤガラ <i>Fistularia commersonii</i> メナダ <i>Chelon haematocheilus</i> ギンガメアジ <i>Caranx sexfasciatus</i> クロサギ <i>Gerres equulus</i> コバンヒメジ <i>Parupeneus indicus</i> マダイ <i>Pagrus major</i> アオタナゴ <i>Ditrema viride</i> キュウセン <i>Halichoeres poecilopterus</i> ヒメハゼ <i>Favonigobius gymnauchen</i> メバル <i>Sebastes</i> sp. オニオコゼ <i>Inimicus japonicus</i> ハオコゼ <i>Hypodytes rubripinnis</i> クジメ <i>Hexagrammos agrammus</i> アサヒアナハゼ <i>Pseudoblennius cottoides</i> トビヌメリ <i>Repomucenus beniteguri</i> アラメガレイ <i>Tarphops oligolepis</i> ササウシノシタ <i>Heteromycteris japonica</i> カワハギ <i>Stephanolepis cirrhifer</i> アミメハギ <i>Rudarius ercodes</i> クサフグ <i>Takifugu niphobles</i>
軟体動物	マダコ <i>Octopus vulgaris</i> ジンドウイカ <i>Loliolus japonica</i> アオリイカ <i>Sepioteuthis lessoniana</i>
甲 殻 類	イシガニ <i>Charybdis japonica</i> フタハベニツケガニ <i>Thalamita sima</i>



第1図 オニオコゼ幼魚の採捕場所



第2図 採捕されたオニオコゼ幼魚

と愛媛県の1例(全長26.8mm)⁴⁾、兵庫県の1例(全長54.3mm)⁵⁾および新潟県の事例(全長50mm以下の個体が17個体、最小は全長14.3mm)⁶⁾が報告されている。これらの報告では、採捕場所は、新潟県以外は、水深が0.6mから10mの海域で、砂泥底に礫が点在あるいは石が投入された場所、または岩礁上に小石が分布する場所とされている。新潟県の事例ではアマモ場で採捕されており、アマモ場がオニオコゼの着底・育成場になっている可能性が高いとしている⁶⁾。また、過去の実験で、オニオコゼ稚魚(全長19.9±1.9mmと33.1±2.4mm)は、底質のみの場所より隠れ場となる海藻やカキ殻のある場所を好み⁷⁾、サイズ別の潜砂実験では、30mmサイズの稚魚は十分な潜砂行動は観察されず、40mmサイズ以上でかなりの潜砂行動を示し、60mmサイズ以上で十分な潜砂能力が備わることがわかっている⁸⁾。これらのことから、今回採捕された個体や2006年に採捕された36.5mmの個体は、潜砂能力が低く、隠れ場となる海藻やカキ殻が有るような場所を好むサイズのオニオコゼであったため、砂礫帯でアオサ類などが分布する今回の採捕場所に生息していたものと考えられる。なお、前述の新潟県の事例では、17個体の内、11個体が潜砂能力を有する全長40~50mmサイズで、潜砂能力が低い全長30mm未満の個体は1例のみであった。以上の事例から、オニオコゼ幼稚魚は、潜砂能力が低い30mmサイズまでは、隠れ場

所のある砂礫帯や岩礁上に小石が点在する場所を生息場所とし、潜砂能力が備わりつつある40mmサイズ以降は、礫が点在する砂泥帯やアマモ場などに生息場所を移すものと推察される。

Ⅲ. 摘要

2008年7月27日に大阪湾南部に位置する泉南郡岬町の東川河口域で地曳き網により、小型オニオコゼを1尾採捕した。これはこれまでに大阪湾で採捕された最小の魚体で、全長27.3mm、体重0.32gであった。潜砂能力が低いオニオコゼ小型個体は、今回の採捕場所のような隠れ場がある砂礫帯を生息場としているものと推察された。

Ⅳ. 引用文献

- 1) 大阪府立水産試験場(2004). 平成15年度資源増大技術開発事業報告書 地域型中・底層性種グループ. 大阪1~大阪8.
- 2) 佐野雅基(2007). 大阪湾の浅海域で採捕されたオニオコゼ幼魚. 大阪水試研報. 17:35~36.
- 3) 大阪府立水産試験場(1992). 平成3年度地域特産種増殖技術開発事業 魚類・甲殻類グループ総合報告書. 大1~大28.
- 4) 愛媛県中予水産試験場・愛媛県中予水産試験場東予分場(1992). 平成3年度地域特産種増殖技術開発事業 魚類・甲殻類グループ総合報告書. 愛1~愛53.
- 5) 玉木哲也・宇野政美(1999). 砕波帯におけるオニオコゼ幼魚の出現. 兵庫水試研報. 36:25~27.
- 6) 首藤宏幸・梶原直人(2008). 佐渡島真野湾のアマモ場で採集されたオニオコゼ稚魚の食性と成長に伴う変化. 日水誌. 74:827~831.
- 7) 大阪府立水産試験場(1994). 平成5年度地域特産種量産放流技術開発事業 魚類・甲殻類グループ総合報告書. 大1~大23.
- 8) 長浜達章・丹下勝義(1987). 種苗生産したオニオコゼの潜砂行動について. 兵庫水試研報. 25:47~52.